

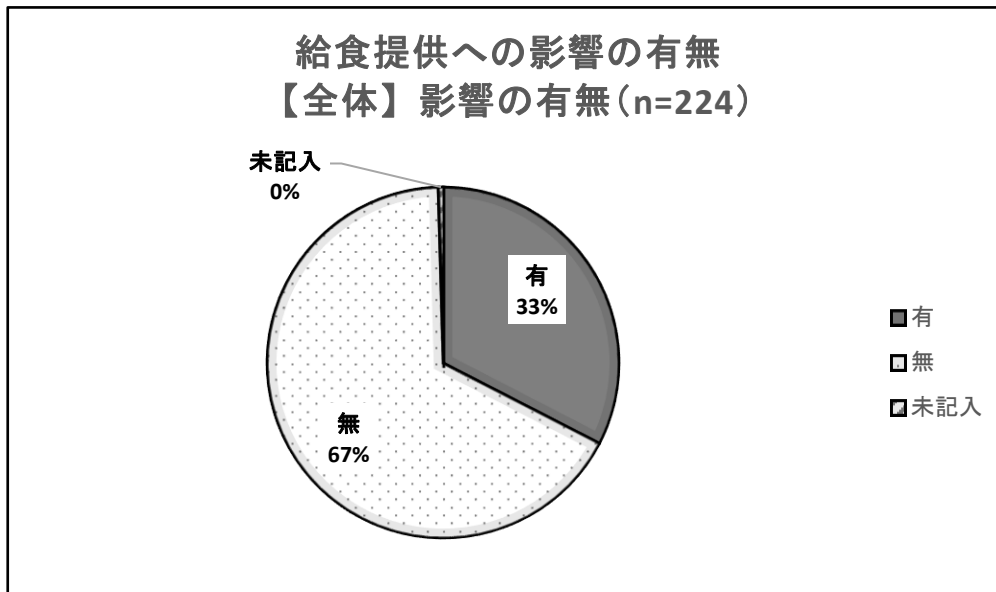
2 まとめ（入所施設・通所施設別）

「集計結果」についての主な分析結果は下記のとおりである。

(1) 令和元年台風19号及び大雨被害による給食提供への影響について

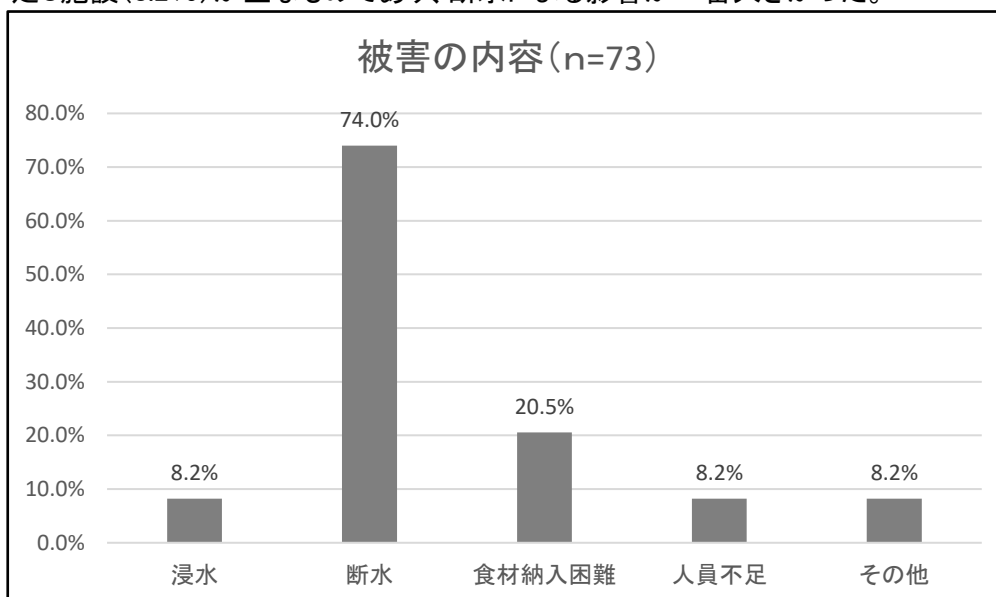
①給食提供への影響の有無

今回の災害は被害が局地的であったため、給食提供に影響があったのは、回答施設224施設中73施設(33%)であった。



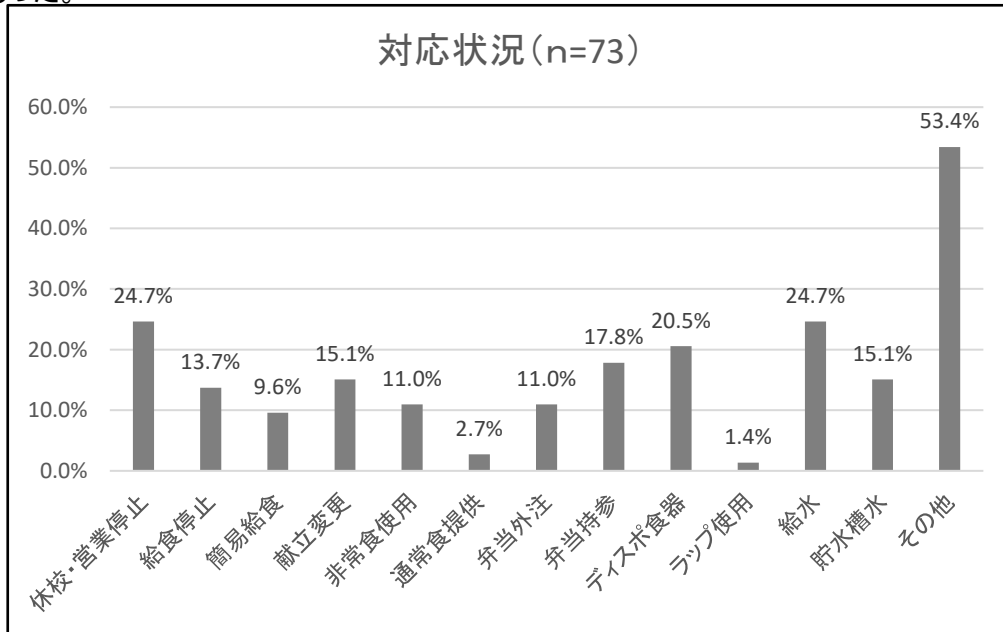
②被害の内容（複数回答）

被害の内容は、断水54施設(74%)、食材納入困難15施設(20.5%)、浸水6施設(8.2%)、人員不足6施設(8.2%)が主なものであり、断水による影響が一番大きかった。



③対応状況

給食について、休校・営業停止・給食停止の対応としたのが28施設(38.4%)、献立を変更して対応したのが26施設(35.7%)、弁当外注・弁当持参としたのが21施設(28.8%)、通常の食事を提供したのが2施設(2.7%)であった。給水を受けたり、貯水槽水を使用した施設が29施設(39.8%)であった。



(2)災害時の体制整備の推進が必要な項目について

①マニュアルの作成

マニュアルを作成している施設は、回答施設224施設中、80施設(35.7%)であり、作成していない施設は142施設(63.4%)であった。【図1-1】施設種別にみると、病院は25施設(100%)マニュアルを作成しているが、他の施設は5割に満たなかった。【図1-2】入所施設と通所施設に分けて割合を見ると、入所施設でマニュアル有が59施設(62.1%)、マニュアル無が36施設(37.9%)、通所施設でマニュアル有が21施設(16.0%)、マニュアル無が106施設(80.9%)であった。【図1-3、1-4】

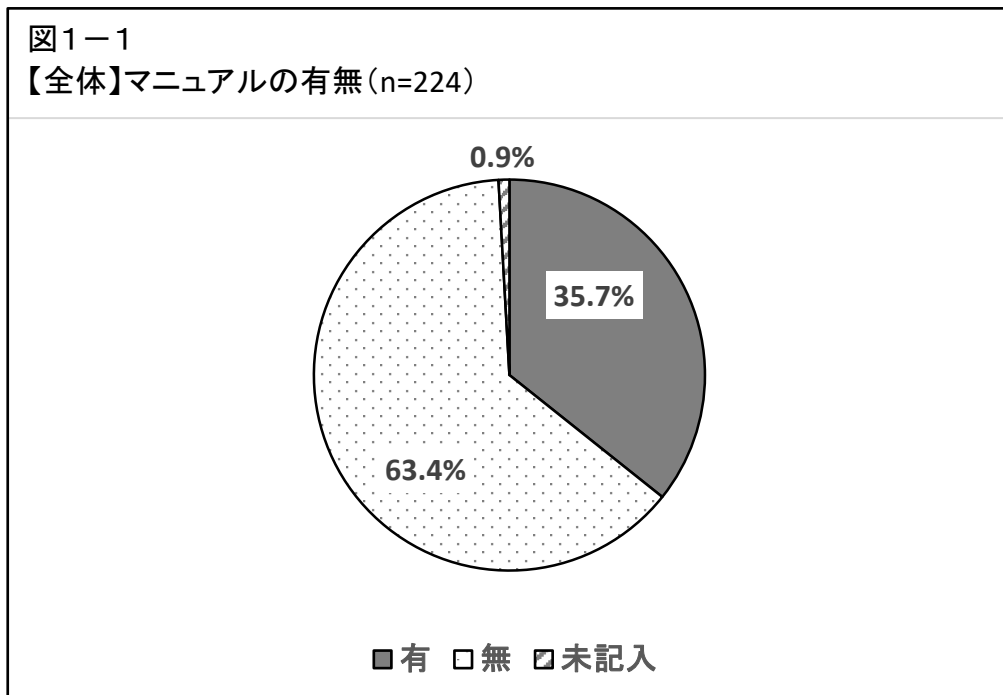


図1-2
【施設種別】マニュアルがある施設

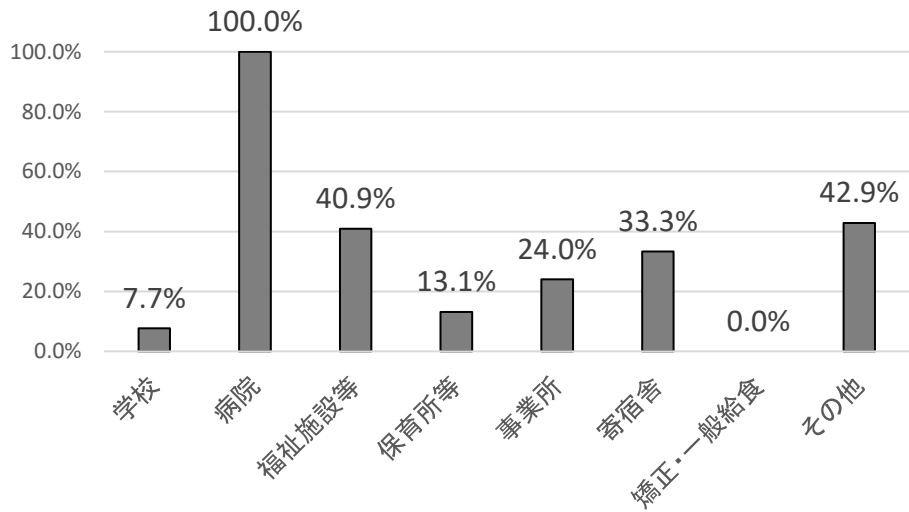


図1-3 マニュアルの有無(入所施設) n=95

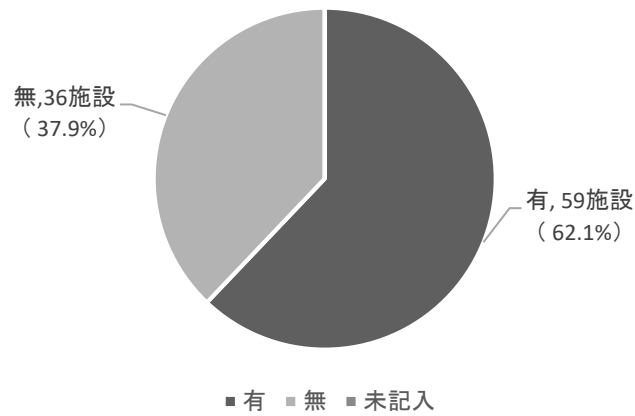
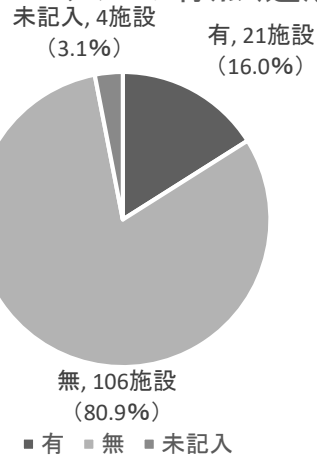


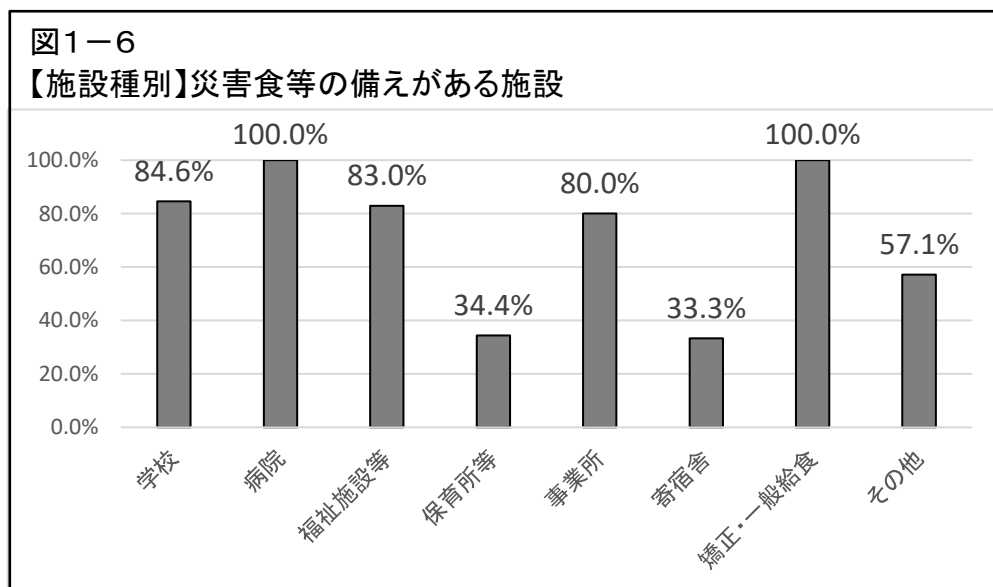
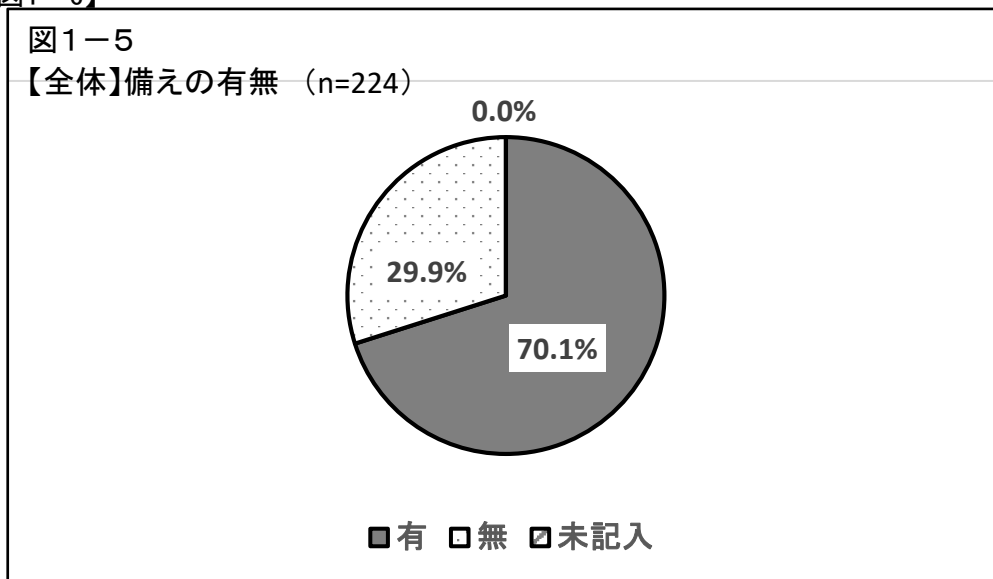
図1-4 マニュアルの有無(通所施設) n=131



②非常食等の備え

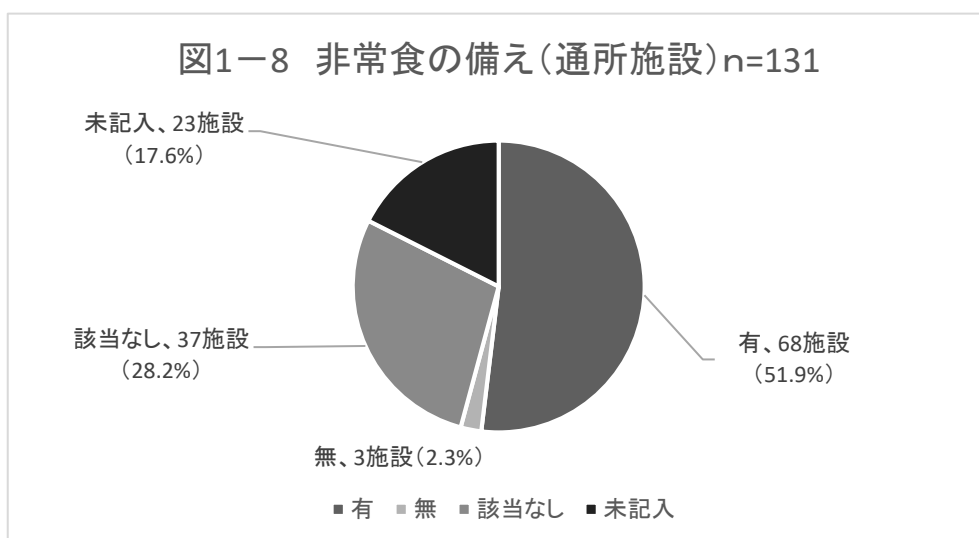
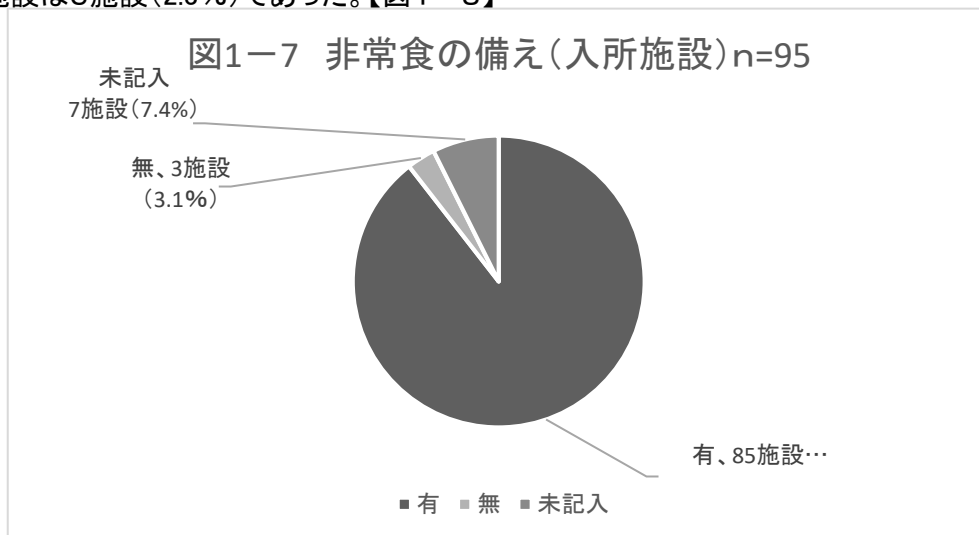
非常食等の備えがある施設は、157施設(70.1%)であり、備えがない施設は67施設(29.9%)であった。【図1-5】施設種別に見ると、回答があった病院・矯正施設・一般給食センターは100%であり、学校・福祉施設等・事業所は8割以上であった。保育所等や寄宿舍は3割程度であった。

【図1-6】



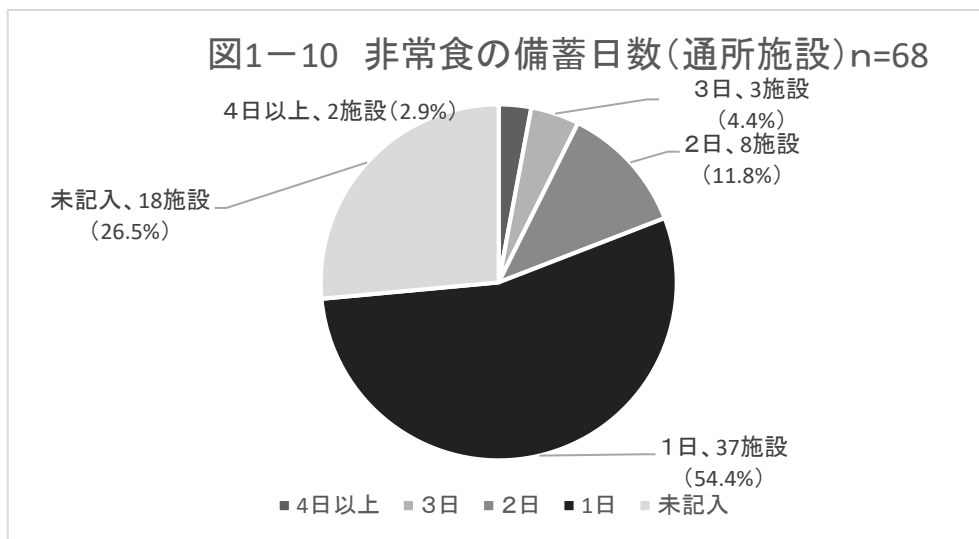
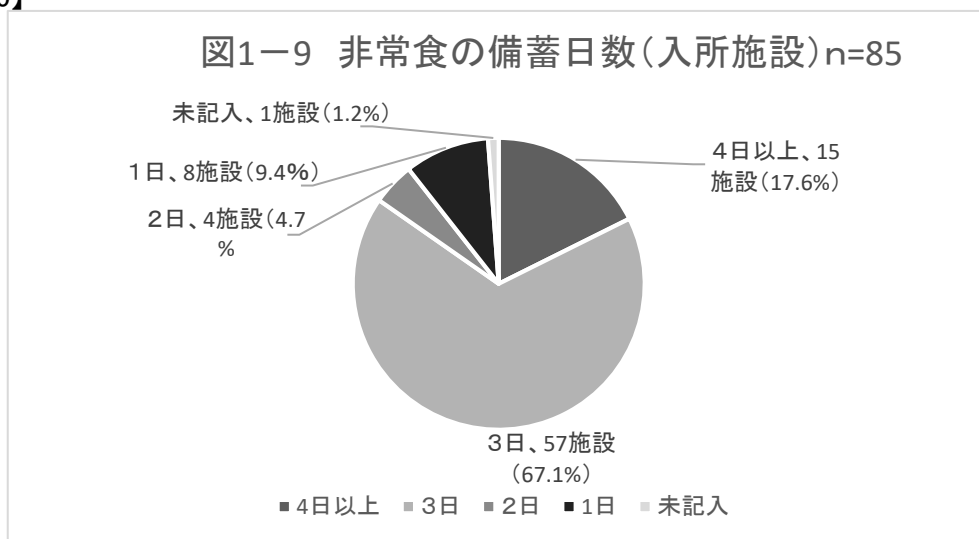
③非常食の備え

入所施設で、非常食を備蓄している施設は85施設(89.5%)で、備蓄が無い施設は3施設(3.1%)であった。【図1-7】通所施設で、非常食を備蓄している施設は68施設(51.9%)で、備蓄が無い施設は3施設(2.3%)であった。【図1-8】



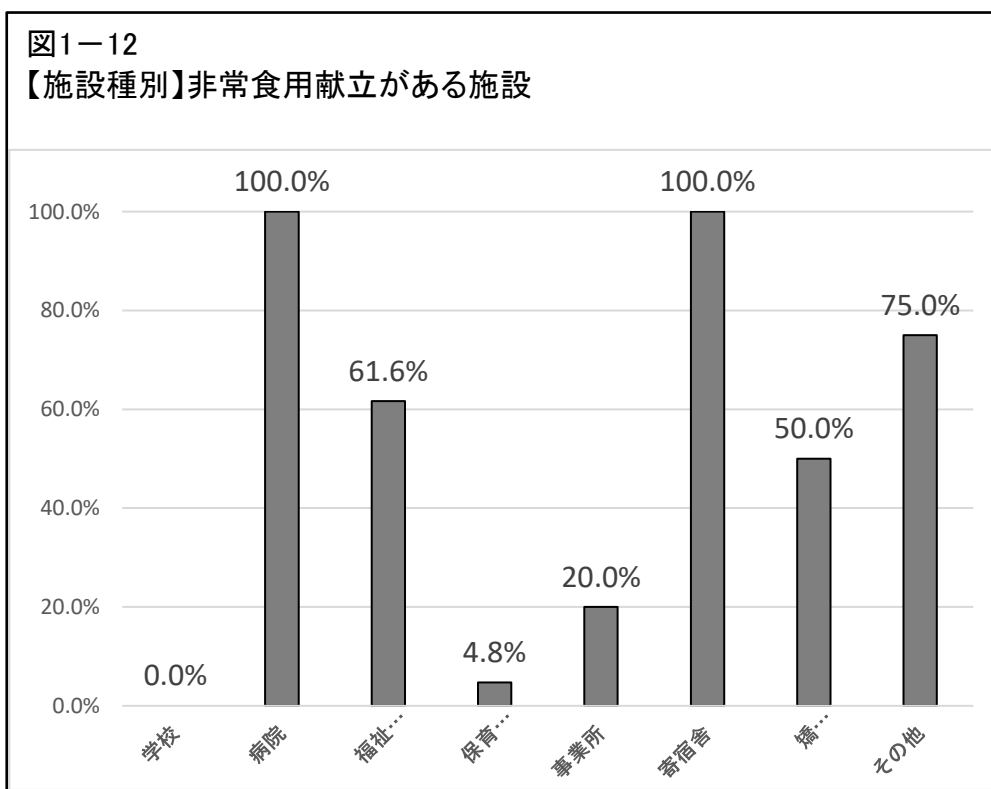
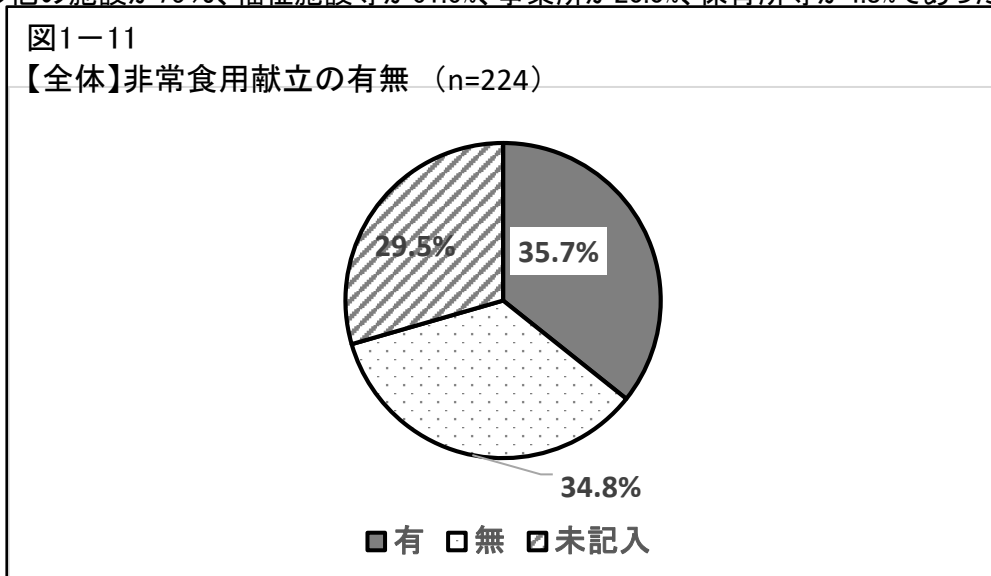
④非常食の備蓄日数

非常食を備蓄している入所施設のうち、3日分以上備蓄している施設が72施設(84.7%)、2日分備蓄している施設が4施設(4.7%)、1日分備蓄している施設が8施設(9.4%)であった。【図1-9】非常食を備蓄している通所施設のうち、3日分以上備蓄している施設が5施設(7.3%)、2日分備蓄している施設が8施設(11.8%)、1日分備蓄している施設が37施設(54.4%)であった。【図-10】



⑤ 非常食用献立の有無

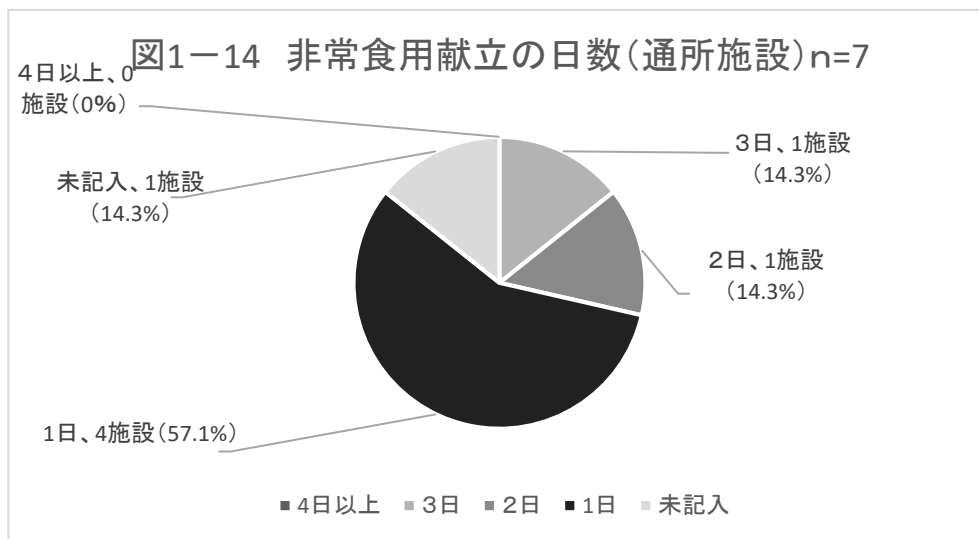
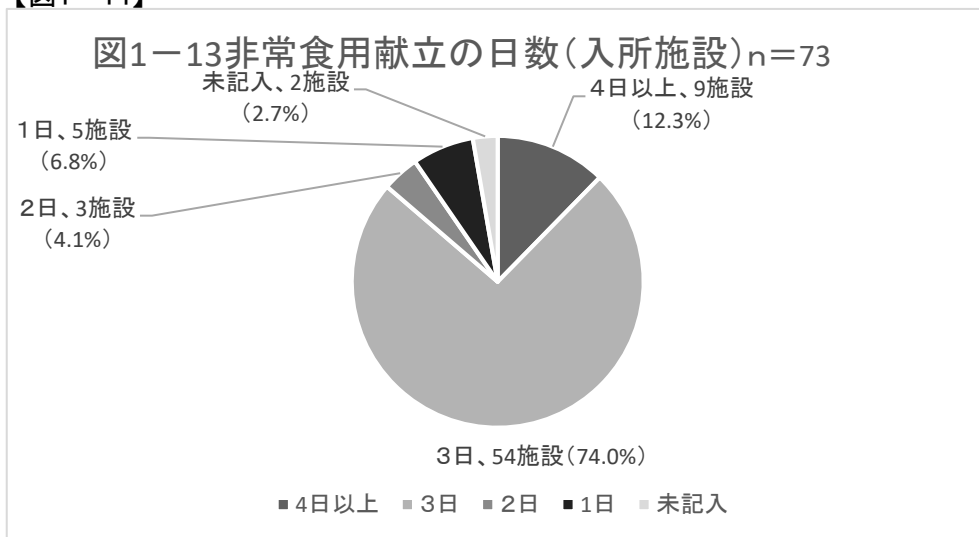
非常食用献立が有る施設は80施設(35.7%)、無い施設は78施設(34.8%)であった。【図1-11】
 非常食等の備えがある施設で、非常食用献立がある施設は病院・寄宿舍・矯正施設が100%、その他の施設が75%、福祉施設等が61.6%、事業所が20.0%、保育所等が4.8%であった。【図1-12】



⑥非常食用献立の日数

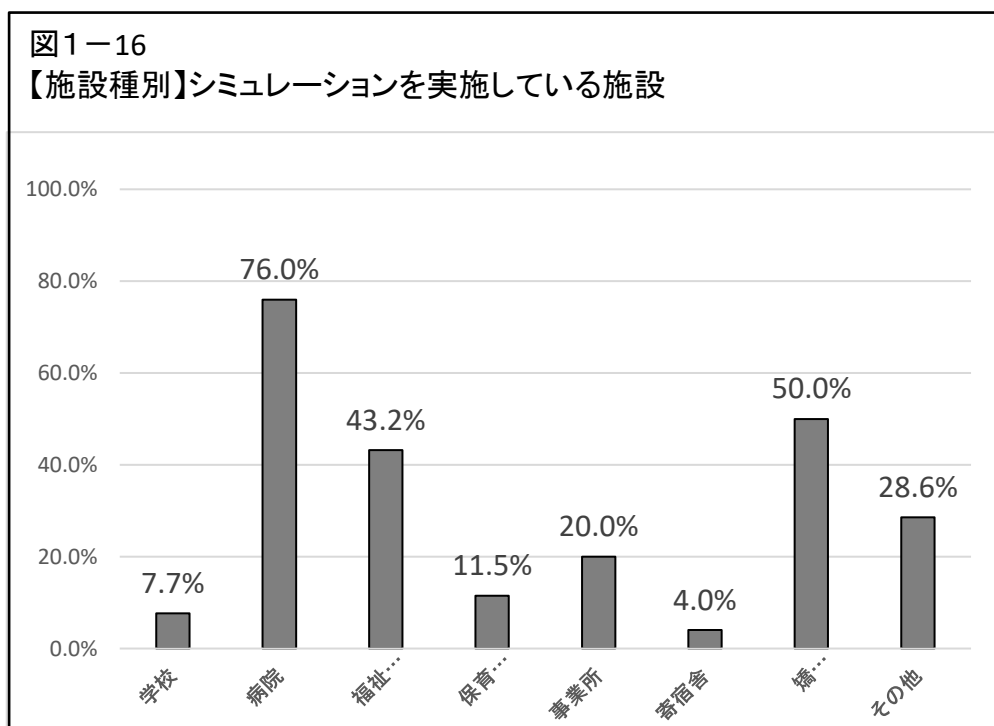
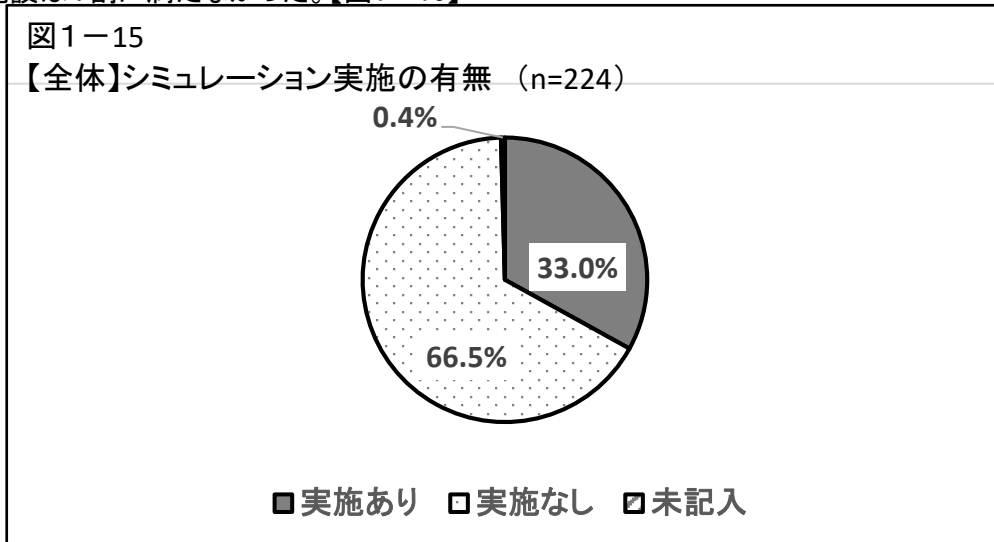
入所施設で非常食用献立を用意している施設のうち、3日分以上用意しているのは63施設(86.3%)であり、2日分が3施設(4.1%)、1日分が5施設(6.8%)であった。【図1-13】

通所施設で非常食用献立を用意している施設のうち、3日分用意している施設と2日分用意している施設がそれぞれ1施設で14.3%、1日分用意している施設は4施設で57.1%であった。【図1-14】

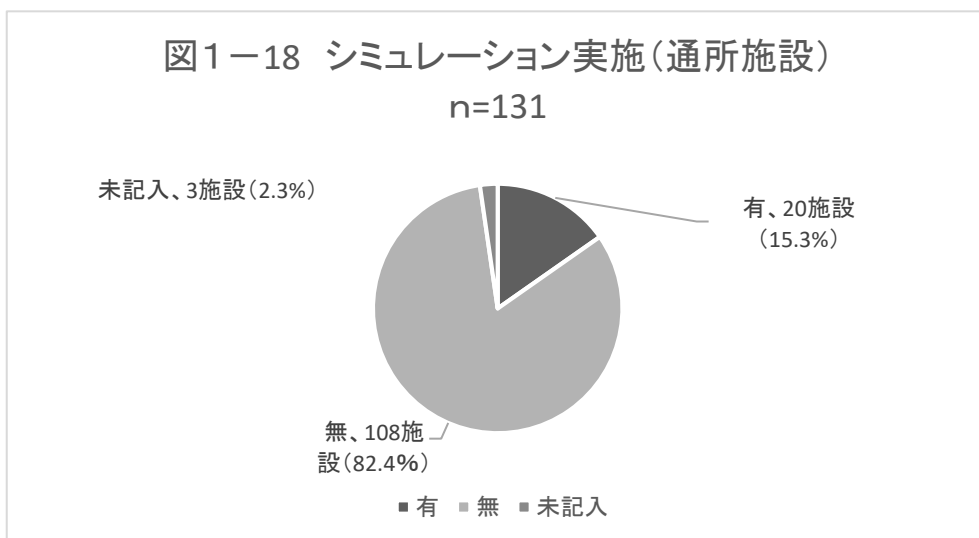
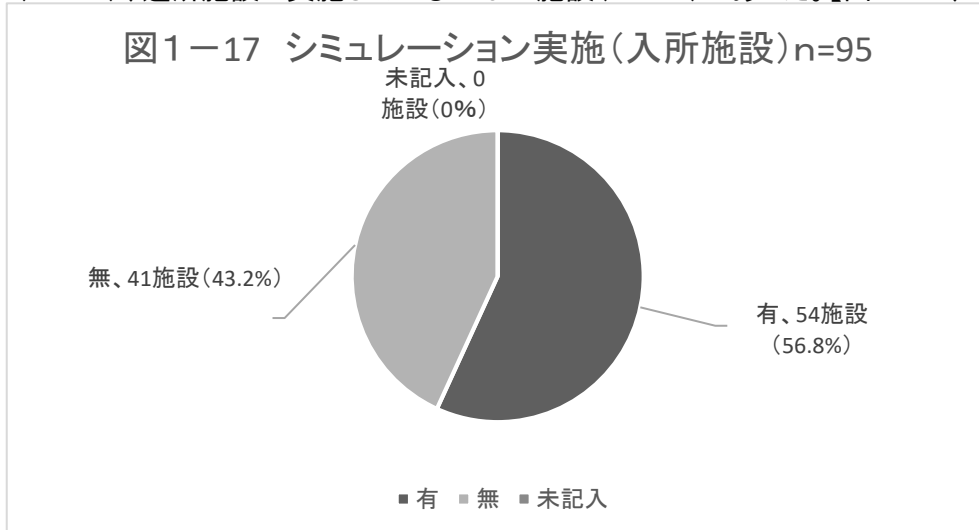


⑦災害時の給食提供に関するシミュレーションの実施

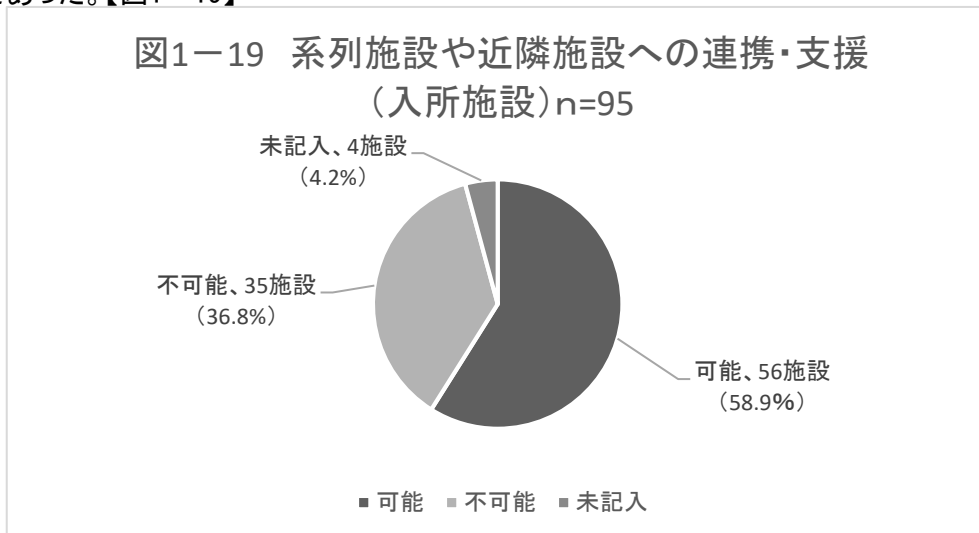
シミュレーションを実施している施設は74施設(33.0%)、実施していない施設は149施設(66.5%)であった。【図1-15】施設種別にシミュレーションを実施している施設を見ると、病院が76.0%、その他の施設が66.7%、福祉施設等が43.2%、事業所が20.0%、保育所等が11.5%であり、それ以外の施設は1割に満たなかった。【図1-16】



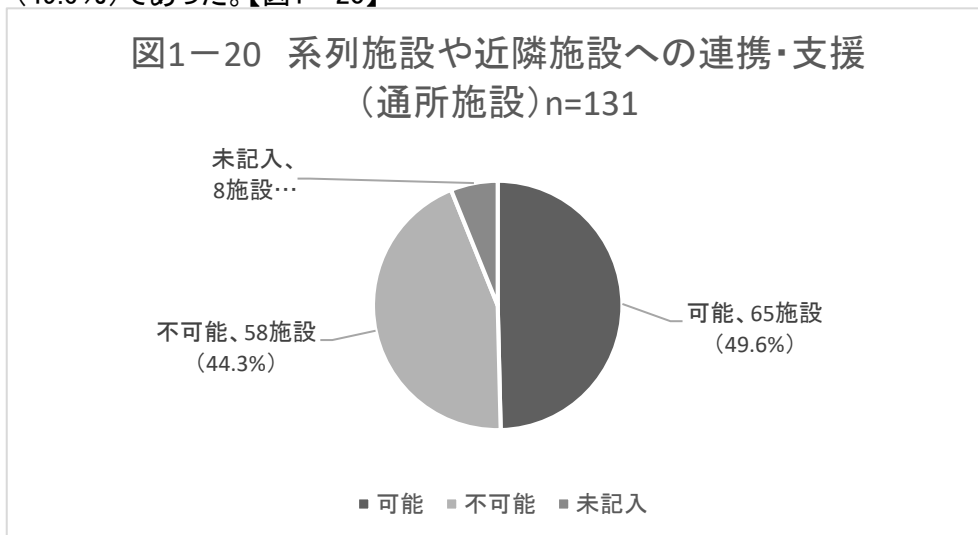
入所施設と通所施設に分けてみると、入所施設でシミュレーションを実施しているのは54施設(56.8%)、通所施設で実施しているのは20施設(15.3%)であった。【図1-17、1-18】



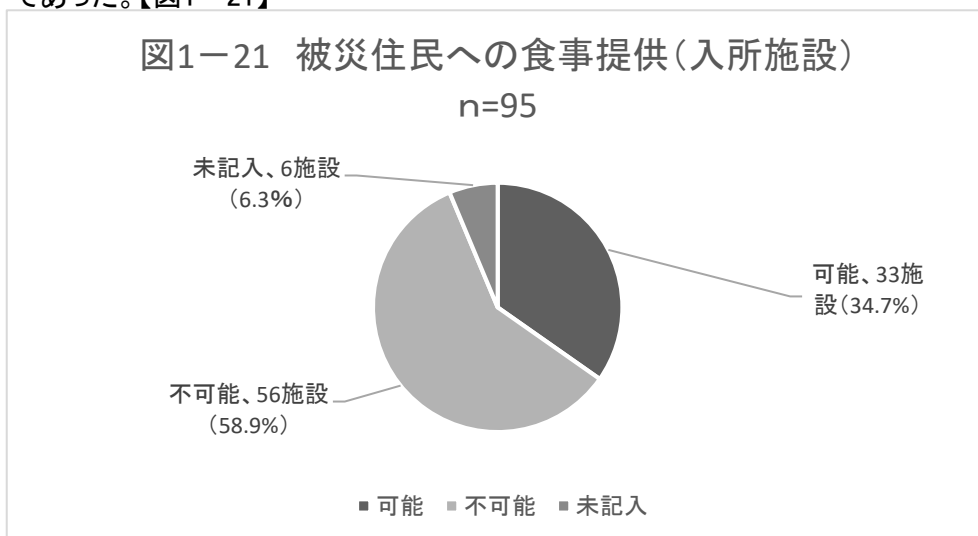
(3) 系列施設や近隣施設への連携・支援
 系列施設や近隣施設への連携・支援が可能な入所施設は、95施設中56施設(58.9%)であった。【図1-19】



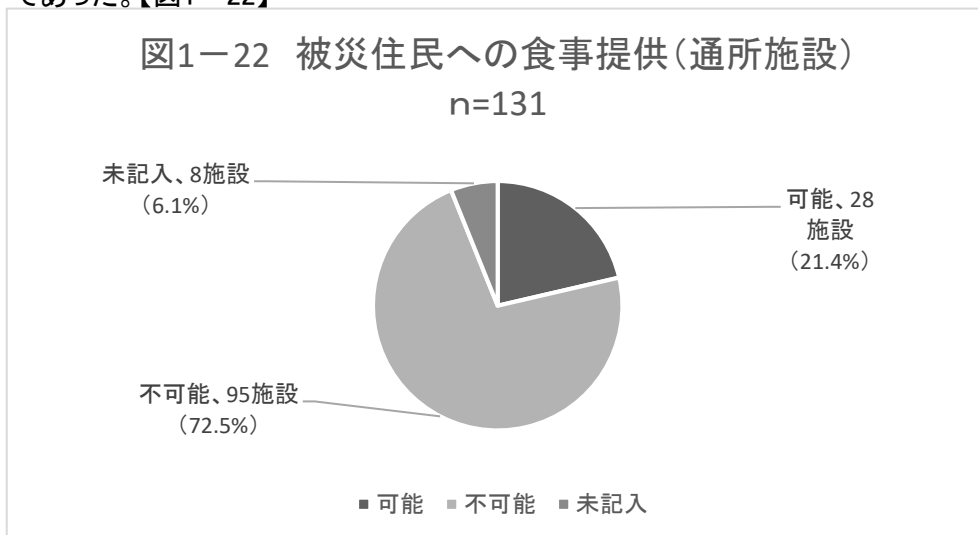
系列施設や近隣施設への連携・支援が可能な通所施設は、131施設中65施設(49.6%)であった。【図1-20】



- (4) 被災住民への食事提供
被災住民への食事提供が可能と回答した入所施設は、95施設中33施設(34.7%)であった。【図1-21】



被災住民への食事提供が可能と回答した通所施設は、131施設中28施設(21.4%)であった。【図1-22】



3 結びに

近年、台風や豪雨災害が増加しており、特定給食施設にも自助としてマニュアルの作成、備蓄品等の整備、災害時献立例の整備、給食提供のシミュレーションの実施等が求められています。特に、入所施設においては、被災後も継続した給食提供が必要となるため、自助としての体制整備が必要不可欠です。

入所施設でマニュアルがある施設は62.1%です。災害はいつ発生するかわかりませんし、何も準備していなければ、入所者への給食提供をスムーズに行うことは難しくなると思われます。災害時の食事提供マニュアルが無い施設は、今回、送付した「災害時における栄養・食生活支援体制について」の給食施設における「災害時の食の備え」簡易チェックリスト等を活用し、まずはマニュアルを作成することから始めていただければと思います。なお、現在マニュアルを整備している給食施設におかれましても、見直しの機会を設けていただき、より質の高いものにしていただければと思います。

また、入所施設で非常食を備蓄している施設は全体の89.5%で、3日以上備蓄している施設は、84.7%となっています。東日本大震災後、非常食や水を備蓄する施設が増えましたが、被災後はすぐに支援物資が届かないため、少なくとも3日分の備蓄を、可能であれば1週間分程度の備蓄を用意したいところです。

通所施設でマニュアルがある施設は16.0%、非常食を備蓄している施設は51.9%となっています。災害発生時、利用者を帰宅させる想定が多いのかもしれませんが、帰宅困難な状況に陥ることも想定し、マニュアルの作成や1日分(3食分)以上の食料や水等の備蓄に努めていただきたいと思います。

市としては、災害が発生しても、給食施設の利用者を含め住民の皆様の生命と健康を守るため、特定給食施設への災害時における給食提供整備体制についての指導・助言及び避難所等における栄養・食生活支援に注力します。

